

2016年3月期 第3四半期決算報告 個人投資家の皆さまへ

第一生命保険株式会社

証券コード: 8750

一生運のパートナー

第一生命

2016年3月期 第3四半期決算のポイント

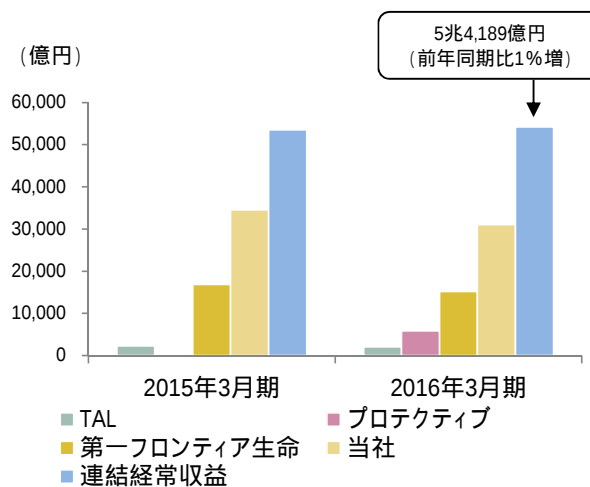
- 2016年3月期第3四半期の連結経常収益は前年同期比で増収となりました。当期から米国プロテクトティブ社(以下、「プロテクトティブ」)が連結対象となったことが主な要因です。
- 連結経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益(以下、連結純利益)は増益となりました。海外金利の上昇により第一フロンティア生命の費用負担が減少したことや、プロテクトティブが連結対象となったことが主な要因です。
- 連結純利益は通期予想を上回る進捗となりましたが、法人実効税率の引下げの影響や足もとの金融市場環境を踏まえ、通期予想は据え置きとしています。

(1) 経常収益

連結経常収益は5兆4,189億円(前年同期比1%増)となりました。

当期よりプロテクトティブが連結対象となったことが、増収の主な要因です。

経常収益 第3四半期実績

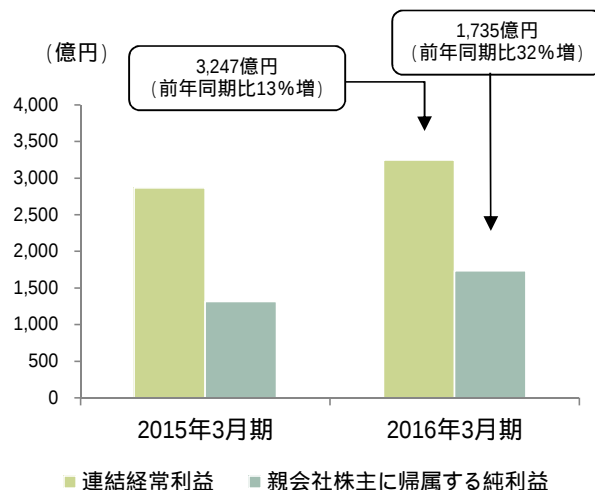


(2) 経常利益・純利益

連結経常利益は3,247億円(前年同期比13%増)、連結純利益は1,735億円(前年同期比32%増)となりました。

第一生命単体では、運用利回りが改善し、順ざやが拡大しました。また、第一フロンティア生命における外国金利上昇に伴う費用負担の減少や、プロテクトティブが連結対象となったことも増益に大きく寄与しました。

経常利益・純利益 第3四半期実績



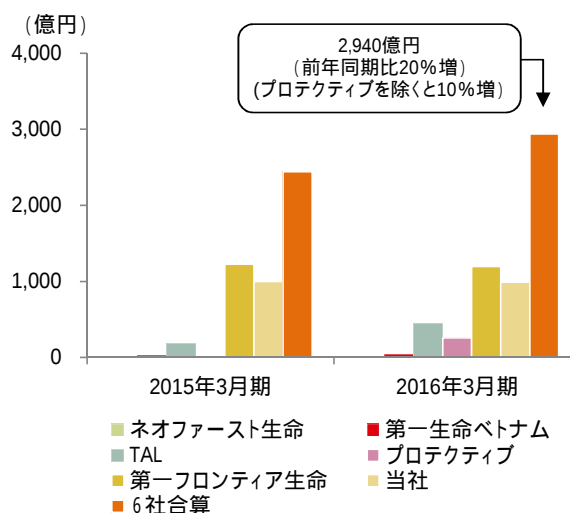
(3) 新契約の状況

新契約を1年あたりの保険料に換算した新契約年換算保険料は、第一生命単体(個人保険・個人年金保険)、第一フロンティア生命、ネオファースト生命()、プロテクトティブ()、オーストラリアTAL社(以下、「TAL」)、第一生命ベトナムの6社合算で、2,940億円となりました。

第一生命単体の新契約は、年金や医療・介護分野の販売が伸展しましたが、一時払商品の販売減により、前年同期比で微減となりました。第一フロンティア生命の新契約は、引き続き高水準を維持しています。

- ()ネオファースト生命の実績は2014年7月以降を対象として記載しています。また、プロテクトティブの実績は、2015年2月 - 9月の8ヶ月分を、2016年3月期第3四半期の実績として記載しています。

新契約年換算保険料 第3四半期実績



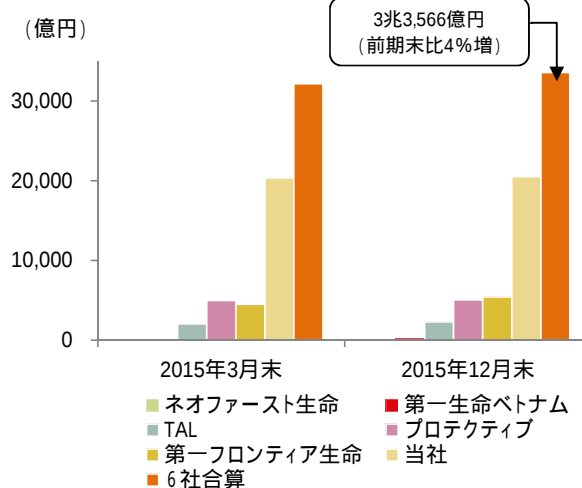
(4) 保有契約の状況

保有契約を1年あたりの保険料に換算した保有契約年換算保険料は、第一生命単体(個人保険・個人年金保険)、第一フロンティア生命、ネオファースト生命、プロテクトティブ()、TAL、第一生命ベトナムの6社合算で、3兆3,566億円(前期末比4%増)となりました。

第一生命単体の保有契約年換算保険料は、前期末比で1%増、うち医療・介護分野では同3%増となりました。第一フロンティア生命は同20%増、プロテクトティブは円換算で2%増、TALは円換算で同12%増となりました。

- ()プロテクトティブの実績は2015年2月1日時点、2015年9月末時点のものを、それぞれ2015年3月末、2015年12月末の実績として記載しています。

保有契約年換算保険料



(5) 含み損益

第一生命単体の一般勘定資産の含み損益(2015年12月末)は、5兆3,321億円となりました。

前期末と比較すると、主に海外における金利上昇により外国債券の含み益が減少しました。一般勘定資産全体では前期末比で2,185億円の減少となりました。

含み損益(当社単体、一般勘定)

(億円)

	2015年 3月末	2015年 12月末	増減
有価証券	54,917	52,480	2,436
うち国内債券	22,368	25,464	+3,096
うち国内株式	17,856	17,427	428
うち外国債券	10,116	6,422	3,694
うち外国株式	3,892	2,741	1,150
不動産	755	973	+217
その他共計	55,507	53,321	2,185

(6) ソルベンシー・マージン比率^(注)

第一生命単体のソルベンシー・マージン比率(2015年12月末)は、含み益の減少などにより、前期末比38.3ポイント低下し、874.9%となりました。

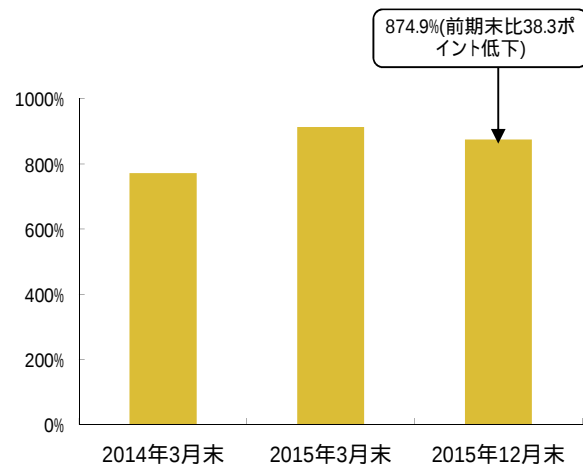
(注)ソルベンシー・マージン比率とは？

ソルベンシー・マージン比率とは、通常の予測を超えて発生するリスクに備えて「支払余力」がどの程度カバーされているかを示す行政監督上の指標のひとつです。

具体的には、生命保険会社が抱える保険金等のお支払いに係るリスクや資産運用に係るリスクなど、多様なリスクが通常の予測を超えて発生した場合、資本などの内部留保と有価証券含み益などの合計(ソルベンシー・マージン総額)で、これらリスク(リスクの合計額)をどの程度カバーできているかを指数化したものです。

同比率の算出は、ソルベンシー・マージン総額をリスクの合計額で割り算して求め、同比率が200%以上であれば、健全性についてひとつの基準を満たしていることを示しています。

ソルベンシー・マージン比率の推移



(7) 業績予想

連結純利益は通期予想を上回る進捗となりましたが、法人実効税率の引下げの影響や、足もとの金融市場環境を踏まえ、通期予想は据え置きとしています。

連結業績予想			
	2015年3月期 (実績)	2016年3月期 (予想)	(億円)
経常収益	72,522	70,960	1,562
経常利益	4,068	3,690	378
純利益()	1,424	1,610	+185
(円)			
1株当たり()			
純利益	125	135	+10
1株当たり 期末配当金	28	35	+7

() 本表における純利益とは、親会社株主に帰属する当期純利益をさします。また、1株当たり純利益の計算に際しては、株式給付信託(J-ESOP)により信託口が所有する当社株式及び信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-ship®)により第一生命保険従業員持株会専用信託が所有する当社株式を除いています。

免責事項

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。